



2024年5月14日

各 位

会 社 名 ワイエイシイホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 百瀬 武文
(コード番号 6298 東証プライム)
問合せ先 取締役管理統括本部長 畠山 督
(TEL. 042-546-1161)

事業セグメントの改編及び中期経営計画（2024～2026年度）のお知らせ

当社は、本日（2024年5月14日）開催の取締役会において、事業セグメントの改編及び2024～2026年度の中期経営計画を策定、公表することを決議しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

当社は、2030年に売上1,000億円企業、創立100周年にあたる2073年には売上3兆円企業へ成長することを展望しております。本件はその通過点として策定したものであります。

記

1. 新事業セグメント

当事業年度より、当社グループ企業を「半導体・メカトロニクス関連」、「医療・ヘルスケア関連」、「環境・社会インフラ関連」の3セグメントに改編し、市場ニーズに迅速に対応できるようグループ力強化を目指します。各セグメントに属する会社は以下の表のとおりです。

セグメント	子会社	孫会社
半導体・メカトロニクス関連	ワイエイシイメカトロニクス（株）	蘇州嘉大電子有限公司
	ワイエイシイガーター（株）	嘉大精密科技股份有限公司
	ワイエイシイビーム（株）	NIHON GARTER PHILIPPINES, INC.
	J E インターナショナル（株）	NGC GARTER(M) SDN. BHD.
	(株) ワイエイシイダステック	(株) GD テック (※)
	YAC Systems Singapore Pte Ltd.	
医療・ヘルスケア関連	ワイエイシイエレックス（株）	
	ワイエイシイバイオ（株）	
環境・社会インフラ関連	大倉電気（株）	宝生産業（株）
	(株) ワイエイシイデンコー	
	ワイエイシイマシナリー（株）	
	瓦愛新（上海）国際貿易有限公司	

(ワイエイシイグループ 全19社)

※(株)GDテックについては、現時点で当社100%子会社ですが、J E インターナショナル(株)の実質開発部門を担っていることから、今後J E インターナショナル(株)の子会社化を展望しております。

2. 中期経営計画基本コンセプト

- (1) 事業ポートフォリオの再編・拡充でグループ力の相乗効果の極大化。
- (2) ビジネスモデルの転換を含む全社的改革。

<基本テーマ>

- 営業改革での受注拡大
- 粗利率アップによる高収益化
- 経費削減、資金管理の徹底

<改革テーマ>

- BtoCビジネスへの新たな取り組み
- 各種量産新製品開発と上市
- 戦略的M&Aの活用

3. 数値目標

(単位：百万円)

事業年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	
売上高	32,000	40,000	56,000	
セグメント別	半導体・メカトロニクス	17,300	20,000	23,800
	医療・ヘルスケア	5,000	7,300	18,000
	環境・社会インフラ	9,700	12,700	14,200
営業利益	3,200	5,000	7,500	
営業利益率	10.0%	12.5%	13.4%	

* 当社は、配当性向 30%を目安とした安定的な配当政策を基本方針としております。

4. セグメント別の改編理由と施策

(半導体・メカトロニクス関連)

成長著しい生成 AI・パワー半導体をはじめ、国家的プロジェクトとして国内回帰の始まった半導体分野の急成長に伴う設備投資の要求に応えるべく、6社を1セグメントにいたします。統合的に管理することにより、効率的な営業展開、協業による生産効率化、人材の有効活用を行い、受注の拡大、粗利率アップを目指します。併せて、量産新製品の開発、販売に向けて資本の有効活用を行います。

(医療・ヘルスケア関連)

医療機器、ヘルスケア部門の2社を1セグメントとしてまとめ、中期的な市場開拓を進めます。OEM 先との協業による人工透析装置の拡販、LINUS BIOTECHNOLOGY, INC. と共同開発した『「全自動毛髪マウンター機 (重金属分析)」と「全自動毛髪スライサー機 (有機物分析)」(合わせて呼称「SAMURAI)」』を用いた革新的な毛髪による疾病解析技術のサービス開拓と普及を図ります。併せて独自に開発した血液マーカーによる疾病解析技術「NeuroDetect」の本格的な事業拡大を進めてまいります。

(環境・社会インフラ関連)

新しい社会インフラを支える分野として制御通信機器、熱処理機、自動包装機の技術を持つ4社を統合管理し、事業の相互補完と業務連携を通じて盤石な経営基盤を維持し、安定的な成長を目指します。併せてSDGsに通じる脱炭素、脱プラスチック関連の装置開発を通じて社会に貢献いたします。

以 上